

当法人の会長石川誠が昨年この世を去り早いもので5月には1周忌を迎えます。まだまだ、残念な思いを拭えませんが、当法人主催の追悼行事を下記のとおり予定しております。患者さま、ご利用者さまなどで哀悼の気持ちを伝えたいと思ってくださっている方に、献花式についてご案内申し上げます。当日はゆかりの品などの展示ブースもございますので、ひととき故石川誠会長を偲んでいただければと存じます。

なお、新型コロナウイルス感染対策のため、ご参列者が密とならないための調整をたく、大変お手数ですが輝生会ホームページから必要事項を入力していただき、事前にお申込みをお願いいたします。



日時 2022年5月29日(日)
献花時間帯: 13時30分から14時30分まで
会場 都市センターホテル コスモスホール

交通アクセス

電車をご利用の場合

- 東京メトロ 有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町」駅
4番・5番出口より徒歩約4分、
9b番出口より徒歩約3分
- 東京メトロ 有楽町線「麹町」駅
半蔵門方面1番出口より徒歩約4分
- 東京メトロ 丸ノ内線・銀座線「赤坂見附」駅
D出口より徒歩約8分
- JR中央線「四ツ谷」駅
麹町口より徒歩約14分



都バスをご利用の場合

橋63系統「平河町二丁目(日本都市センター前)」下車
(新橋駅～市ヶ谷駅～小滝橋車庫前)

参加申込について

参加方法: <https://www.kiseikai-reha.com/event-ishikawa.html>
下段のフォームに必要事項を入力の上
送信ボタンを押してください。



受付締め切り日: 2022年4月30日まで

★供花につきましては、公益社までお問合せください。
公益社/電話 03-5786-9630 FAX 03-5786-9629

ご注意) 新型コロナウイルスの感染状況によっては、行事開催を中止する場合がございます。

本会についての問い合わせ先:

医療法人社団輝生会内「石川誠会長 1周忌追悼行事」事務局
メールアドレス: memorial@kiseikai-reha.com

～令和4年度 新入職員の皆様へ～



医療法人社団 輝生会
理事長
水間 正澄

新入職員の皆さま、入職おめでとうございます。心からお慶び申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大

により社会全体の活動が制限され人々の暮らしも大きく変化してしまいました。特に、新卒の皆さまにとりましては厳しい状況の中、不安な日々を乗り越えて、今日の日を迎えられたことと思います。

輝生会では、コロナ禍における感染対策等により活動が制約される中でも、各拠点において患者さま・利用者さまの生活支援や社会復帰にむけた医療を提供し続けることができました。その背景には日頃から培われてきた強いチーム力があつたからと感じております。

これは、輝生会マインドを基礎として法人の設立から長年にわたって培われてきたものです。

輝生会は今年で20周年の節目の年を迎えます。2002年、故石川誠会長が初台リハビリテーション病院を開院して以来、回復期のリハビリテーション医療のモデルとなることを目指しました。さらに、生活期のリハビリテーション医療提供体制の確立、地域リハビリテーション活動を通して社会への働きかけにも積極的な関わってまいりました。20年の節目を迎えるにあたり、新しい時代に向けて組織改革を行い、より質の高い医療の提供にむけ様々な取り組みも開始いたしました。

故石川誠会長が掲げた法人の大きな目標は、障害児・者、要介護者、高齢者等が安心・安全に普通に生活できる社会づくりに貢献することです。目標に向けてなすべきことは、人々の暮らしを支えるリハビリテーション医療の提供だけでなく、人々が地域で安心安全に暮らして行くことを支援する地域リハビリテーション活動を推進して行くことです。皆さまには、輝生会のチームの一員としてリハビリテーション・マインドをもって、大きな目標に向けての力となっていただけることを期待しております。

「輝生会がおくる!リハビリテーションチーム研修テキスト~チームアプローチの真髓を理解する~」

この度、全日本病院出版会より「輝生会がおくる!リハビリテーションチーム研修テキスト~チームアプローチの真髓を理解する~」を出版いたしました。

医療法人社団輝生会が2002年6月1日に初台リハビリテーション病院を開院し20周年を迎える節目に向けて、当時教育研修局長であった現理事長の水間正澄の発案で制作を開始、輝生会の創設者である故石川誠会長が大切にしてきたチームアプローチが新採用者研修でどのように教育されているかを知っていただける本となりました。

また、故石川誠会長自身のインタビュー記事も掲載し、故石川誠会長が伝え続けてきた理念や輝生会マインドをお伝えできるものになっています。

当院のスタッフはもちろん、多くの皆さまにご一読いただき、輝生会のチームアプローチに対する考え方を幅広く知っていただくとともに、あまねく医療機関や地域の関係機関における教育等に役に立てていただけるような一冊となることを願っております。



輝生会の 基本理念と方針	■「人間の尊厳」の保持	■「地域リハビリテーション」の推進	■「情報」の開示
	■「主体性・自己決定権」の尊重	■「ノーマライゼーション」の実現	
輝生会における 患者さまの権利	■ 人権を尊重される権利	■ 最善の医療を受ける権利	■ 自らの意思で選択・決定する権利
	■ 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利		■ プライバシーの保護を求める権利

第39回 回復期研究大会 in 東京



2022年2月4～5日、第39回 回復期研究大会in東京(回復期リハビリテーション病棟協会主催)をハイブリッド(会場:グランドニッコー東京台場ホテル)で開催いたしました。新型コロナウイルスの影響で札幌・熊本大会が2年連続で中止となり、3年ぶりの研究大会でした。残念ながら感染拡大の影響で現地参加は多くありませんでしたが、Web参加と合わせて1,560名の参加登録があり、全国からの参加者との久しぶりの再会に、あらためて人と人の繋がりの大切さ、貴重さを実感しました。

大会のテーマは「復権 ～障がい者の復権に向けてやるべきこと～」でしたが、テーマに沿った講演・シンポジウム・委員会企画など、充実した内容をお届けできたのではないかと思います。また、一般演題にも多数の応募があり、コロナ禍でよくぞここまでと思うようなレベルの高さの演題ばかりで、研究など二の次三の次になっているのでは?という心配は杞憂に終わりました。

大会テーマの「復権」は、故石川誠会長が終生こだわり続けてきたことです。今大会も名誉大会長として参加する予定でしたが、残念ながら叶いませんでした。ただ、恩師の上田敏先生、盟友の二木立先生や才藤栄一先生にもご登壇いただき、また池田副大会長の尽力で追悼ブースも充実したものとなり、これ以上ない追悼の場となったのではないのでしょうか。

感染拡大のなかでの苦しい開催ではありましたが、今回の大会が、輝生会の頑張りを後押しし、これからの回復期リハビリテーション病棟の発展に少しでも寄与できれば幸いです。

「第39回 回復期研究大会in東京」が無事終了しました。この大会は、回復期リハビリテーション病棟協会主催であり、毎年理事病院が持ち回りで担当し全国各地で開催される約3,500名規模の大会です。

東京大会は、約1年前より準備を開始し順調に進んでいましたが、新型コロナウイルスの急激な拡大により大会2週間前まで運営方式の変更を余儀なくされました。よって、十分な練習を行えず不安を残しながら開催当日を迎えましたが、どうか大きなトラブルもなく無事に開催することができました。これも一重に、現地で参加して下さった方々・Web参加して下さった方々・演者の方々・協賛企業の方々・各協会関係の方々等からいただいたご協力のおかげだと思っております。この場をお借りし、御礼申し上げます。

大会の参加者数は、例年の半数程度になりましたが、各方面からお褒めの言葉をいただいております。大会全般へのことはもとより、特にうれしく思ったことは、当法人の運営スタッフのことをお褒めいただいたことです。

「元氣よく、きびきびと動いていた」「さすが輝生会だ」「輝生会の底力をみた」など、当法人が力を入れている接遇が活かされた結果だと思っております。故石川誠会長も天国から「よくやった」と満面の笑みを浮かべているのではないのでしょうか。

今後も輝生会は一丸となって、地域社会のため、より一層力を入れていきたいと思っております。

第39回 研究大会in東京 大会長 菅原英和

第39回 研究大会in東京 副大会長 池田吉隆

輝生会事業所通信

初台リハビリテーション病院

災害リハビリテーション 研修会開催報告

3月7日、今年度最後となる区西南部地域リハ支援センター事業は、2016年の熊本地震でJRAT(一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会)として支援活動にあられた当院の森直樹医師に「災害リハビリテーション」をテーマにご講演いただきました。大規模災害発生により被災された方への生活不活発病の予防方法など、被災地で実際に直面した問題や解決方法を写真や動画を交えながらわかりやすくお話いただき、私たちが平時より取り組むべき連携の在り方や心構えについて考える機会となりました。



船橋市立リハビリテーション病院

久しぶりの降雪 雪かきの様子

今年は、1月と2月にまとまった雪が降り、関東平野でも4年ぶりの積雪となりました。船橋市立リハビリテーション病院では敷地が広いこともあり、朝からスタッフ総出で雪かきを行うのが恒例となっております。今年から除雪機も活用し、患者さまが安全に来院できるように皆で汗をかきながら実施しました。積雪で真っ白だった正面玄関前ロータリーや駐車場から雪が無くなったとき、安堵とともに達成感がありました。



船橋市リハビリセンター

介護予防のおすすめ情報発信!!

地域リハビリテーション拠点事業の一環として、新型コロナウイルス自粛生活の中、自宅でもできる運動をご紹介します。この度、新たに「おすすめ健康体操」が加わりました。また、定期的に発行しているリーフレットも新しいものが完成しました。タイトルは、「【あなたは大丈夫?ロコモに注意】～今からロコモトレーニングで予防を始めよう!!～」です。当センターでは、地域リハビリテーションの推進を目指し、皆さまに役立つ情報を発信しています。ぜひ、ご注目ください。

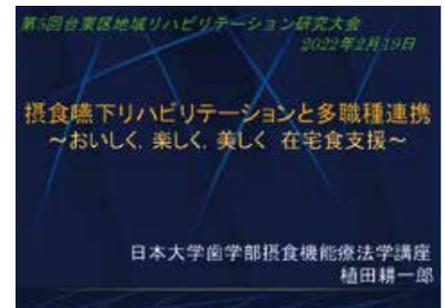


在宅総合ケアセンター元浅草

第5回 台東区地域リハビリテーション研究大会 開催報告

2月19日(土)第5回目となる研究大会をオンライン形式で開催しました。『摂食嚥下リハと多職種連携』をテーマ、シンポジスト4名を迎え、具体的な事例を通し自職種の立場から摂食嚥下リハの現在の取り組みや地域としての今後の活動や方向性について発表いただきました。

また特別講演として日本大学歯学部摂食機能療法学講座教授の植田耕一郎先生にご講演いただき、活発な研究大会となりました。



在宅総合ケアセンター成城

回復期リハビリテーション病棟を増床しました。

当院では、2022年2月に回復期リハ病棟を現在の26床から30床(2人床2部屋)へ増床しました。新設された病室は、窓も大きく非常に開放的なお部屋となっております。今後も地域医療機関と連携を図りつつ、患者さまの在宅復帰を目的として必要かつ十分な入院リハビリテーション医療サービスを提供し、また退院後は外来リハや通所リハ、あるいは訪問による生活期リハビリテーションサービスを提供できるよう努めてまいります。

